

プロジェクト報告書

【締切:プロジェクト終了後1か月以内。もしくは 2008年4月15日】

団体名 NPO 法人 氣の活用.COM

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容及びよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. プロジェクト名

「次代を担う中学生・高校生に“生きる力”を涵養する事業」

2. プロジェクトの目的とその背景 300文字まで

青少年が引き起こす、身内や友人への想像を絶するような悲惨な犯罪が、頻発しています。

また、登校拒否やひきこもりも増大しています。

この現状を鑑みた時、若い人たちに「自分が“本来持っている力”の存在」に気づかせて、「自分自身に自信をもたせること」を体得させ、『次代を担う中学・高校生の“生きる力”』を涵養することが緊急の課題だと痛感しています。

学校教育で、宗教教育が禁止されている現状ですが、宗教教育に代わるものとして、『氣の活用研修』では、武道(合気道)の理念を通して、

「心」と「身体」の性質・関係)や、「真の落ち着き」「集中力」「やる気」「正しい姿勢」「人間本来の力」の発揮の仕方「大自然の生命力」「プラスの言葉・考え方の重要性」などを体得させて、『生命の大切さ、自分の大切さ、他人の大切さ、物の大切さ』を感得させます。

同時に、「自分自身に自信を持たせること」を体得させます。

3. プロジェクトの内容 300文字まで

学校スポーツ関係では、過去に岩倉高校の野球部、長崎工業高校の野球部、御殿場西高校の空手部、東海大学の箱根駅伝チームなどで実施し、数多くの実績をあげてきました。

今回の助成期間中には、長崎県立猶興館高校の野球部・空手部・弓道部、長崎工業高校の野球部、玉川学園の弓道部・ソフトボール部・父兄と先生、玉川大学の女子バスケットボール部、駒込学園の父兄・OB/同窓会、東海大学の箱根駅伝チーム、横須賀市の北下浦小学校のPTA、福島県の桧沢中学校のソフトボール部・父兄・PTA、佛教大学の女子駅伝チームなどで「氣の活用研修」を実施しました。

今後は、先ず各都道府県の中学・高校・大学のクラブ活動で成果を出して、次に一般学生に広げていきたいと企画しています。

具体的な内容は、添付の「学校でのカリキュラムの例」を参照して下さい。

4. プロジェクト実施にあたっての工夫点とその効果 300文字まで

「氣の活用法」の研修効果を、目に見える形で出すためには、スポーツで結果を出すのが一番の早道です。

学校のクラブ活動で成果を出してから、一般の学生に広げていく戦略をとりました。

高校・大学のクラブ活動の選手たちに、

「心と身体の性質・関係」「真のリラックスの仕方」「真の落ち着き」「心のしずめ方」「心身統一の方法」「不動心・不動体」「人間本来の力」「あがった時の対処の仕方」「成功したイメージづくり」などを、講義と実技で体得してもらい、『こころで“持てる力”を十分に発揮できること』などを、身体を通して習得してもらいました。添付の「学校関係の実施状況 報告書」を参照して下さい。

クラブ活動での成果として、

猶興館高校の空手部は研修直後の高校総体で「団体優勝」をしました。長崎工業高校は15年ぶりにベスト8まで勝ち進みました。今年の大学駅伝は、男子が東海大学、女子は佛教大学が日本一になります。

5. 全体的所感、終了しての感想など 300文字まで

日本中が閉塞感に満ちています。この解決法として、子供から大人まで、それぞれの年代における“氣の活用”が求められています。

学校のクラブ活動のスポーツを通して“氣の活用法”の結果を出して、次に、これからの日本を背負って立つ若い人たちや、一般学生に、「自分自身に自信を持つこと」を体得してもらって、「学生生活や人生万般」に、活用してもらいます。

ちなみに、王監督の一本足打法や、ヤンキースの松井選手がバッターボックスで肩を上下させることや、大相撲の千代の富士が小指で前みつを取りに行くことなど、全て、私の師匠で合気道十段の藤平光一先生が教えたことです。（講談社新書の「氣の威力」という本に、写真付きで載っています）

NPO 氣の活用コムでは、ボランティア活動として、全国に「プラスの氣」の種をまいていきます。

6. 参考資料

支援対象プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等は現物またはコピー、活動風景の写真を参考資料として提供してください。

参考資料あり・特になし